

はじめに

女性研究者養成システム改革加速推進本部長 岩井 薫

平成 22 年度に文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」(平成 23 年度から同科学技術人材育成補助金「女性研究者養成システム改革加速事業」)に採択され、実施されてきた本事業(採択課題名『伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点』、採択期間:平成 22~26 年度)もいよいよ最終年度となりました。

本事業では、女性人材育成機関としての本学の伝統を基盤とし、学長のリーダーシップの下で男女共同参画推進に係わる全学的な組織の再構築を行い、女性研究者養成に係る以下の 3 つのシステムを推進し、次世代の女性研究者養成拠点としての役割を果たすことを目的としています。

- ・若手研究者養成システム
- ・研究スキルアップシステム
- ・若手研究者サポートシステム

若手研究者養成システムでは、新規養成女性研究者を採用計画に沿って平成 22~26 年度で理学系 7 名(准教授 1 名、助教 6 名)と工学系 2 名(助教 2 名)を、また、平成 24 年度には本学独自養成女性研究者 1 名(工学系 講師)を採用しました。本事業終了時の女性教員比率の目標は理学系 21.0%、工学系 31.3%ですが、平成 27 年 2 月現在、理学系 24.7%、工学系 33.3%と目標値を達成しています。また、本養成システムではこのシステムの下で採用された若手女性研究者の研究費支援も行いました。

研究スキルアップシステムでは、学内の理工農系の女性研究者を対象に、国際学会・国内学会での研究成果発表のための支援や学術論文投稿のための英語論文校閲の支援を行いました。

若手研究者サポートシステムでは、養成システムに係る新規養成若手女性研究者に対し 3~4 名の教員からなるメンターチームを構成し、指導助言を行いました。なお、本学では、メンターチームが有効に機能するようにメンターチーム評価制度を設け、PDCA サイクルを活用することで、関係分野だけでなく全学的な観点から女性研究者養成システム改革推進状況の把握に努めています。

この 5 年間で女性教員比率は、理学系で 14.3%→24.7%、工学系で 21.4%→33.3%と大幅に増加し、大学全体でも 27.4%→33.7%と増加しました。今年度で本事業は終了しますが、本事業で培われた経験と実績を踏まえて、若手女性研究者養成拠点を確固たるものとし、次世代を担う優秀な女性研究者層を厚くし、研究の質の更なる向上を図ることが望まれます。